

## 新任教授のご挨拶

## 沖縄県の地域に根差した薬剤部をめざして

琉球大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長 中村 克徳



医学部医学科同窓会の皆様、初めまして。平成27年8月1日付で琉球大学医学部附属病院の薬剤部長を拝命いたしました中村克徳と申します。この度、同窓会会長の蔵下要先生のお計らいにより、同窓会誌「南風」で

皆様にご挨拶させていただく機会をいただきました。心よりお礼申し上げます。現在、琉球大学医学部附属病院で薬剤部長を務める重責を胸に日々業務に邁進しております。私は、北海道のアイスホッケーで有名な「氷都」苫小牧市で生まれました。平成6年に北海道大学薬学部を卒業し、平成11年に北海道大学大学院薬学研究科にて鎌滝哲也教授のご指導の下で「薬物代謝の遺伝的多型と薬物間相互作用：抗ヒスタミン薬を中心として」という研究テーマで博士号を取得、米国バンダービルト大学医学部の博士研究員として2年間留学いたしました。その後、群馬大学医学部附属病院薬剤部（薬剤師・助教）、信州大学医学部附属病院薬剤部（准教授・副薬剤部長）、名古屋市立大学薬学部（臨床薬学教育研究センター准教授）を経て、「美ら島」沖縄の琉球大学に参りました。前任地の名古屋市立大学では、医学部・看護学部・薬学部が連携した、地域と育む未来医療人「なごやかモデル」という活動に参加しておりました。これは、住み慣れた土地で、豊かに老いを迎え、その人らしく暮らすことのできる社会づくりを支える幅広い多職種連携チームの中で活躍できる医療人材の育成を目標としています。琉大病院においても、琉球大学医学部同窓会の方々にご支援いただき、沖縄県の地域に根差した活動を実践したいと考えております。他にも、薬剤部では臨床・研究・教育の3本柱をバランスよく行いたいと考えております。

①臨床：薬剤師は現在、病棟へ活躍の場を広げ、患者さんのために頑張っております。医療チームに積極的に参画し、必要に応じてフィジカルアセ

スメントを副作用モニタリングなどに使うことができる薬剤師養成を目指しております。災害時に制限された環境下においても柔軟な対応ができる薬の専門家としての薬剤師の養成にも努めたいと思っております。がん専門薬剤師などの専門・認定薬剤師の取得もサポートしていきたいと思っております。

②研究：薬剤部では基礎と臨床、両方の研究に力を入れて行きたいと考えております。効果や副作用が薬物の血中濃度で予測できる薬物については積極的に治療薬物モニタリングを、遺伝子解析で予測できるものはSNPsなどの薬物投与前(迅速)診断を推進いたします。また、その成果を学会発表や論文発表することで社会に貢献するとともに、薬剤師のやる気につなげていきたいと思っております。

③教育：沖縄県には残念ながら薬学部が存在せず、全国の都道府県の中では最も薬剤師が不足している県であります。薬剤部では、患者さんにとって頼もしいと感じられる「顔が見える薬剤師」を沖縄県で育てるためには何が必要なのかを常に考えながら、薬学部実務実習生を積極的に受け入れ、同時に若手薬剤師の教育も重点的に実施していきたいと考えております。また、何らかの理由で一時的に離職している薬剤師の先生が不安なく職場復帰できるようなサポート体制の充実も、沖縄県薬剤師会・沖縄県病院薬剤師会と連携して進めたいと考えております。

琉大病院で患者さんにより良い薬物療法を提供できるように、薬剤部一丸となって努力していきたいと思っておりますので、どうか琉球大学医学部同窓会の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。